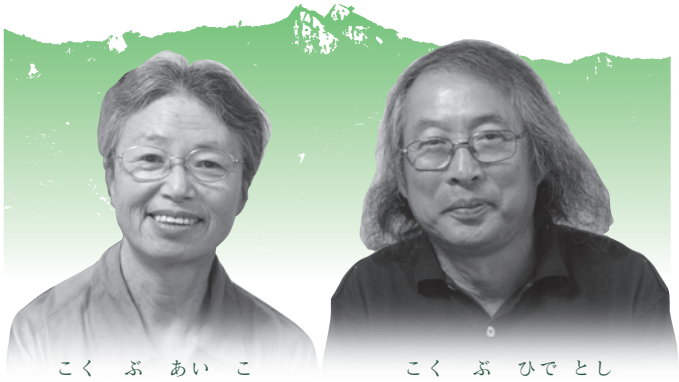
こうほうショッキング Vol.78

Kōhō shocking



國分愛子（こくぶあいこ）さん（66歳）　國分英俊（こくぶひでとし）さん（66歳）

●プロフィール

お二人とも厳原町今屋敷出身で、幼なじみ。英俊さんは高校卒業後、大学生活のため4年間東京で過ごし、帰郷。愛子さんは高校卒業後、福岡の短大に進学し卒業後4年間働き、帰郷。24歳で結婚。中学校教諭だった英俊さんの最初の任地は、上県町伊奈。教諭生活の間、島外勤務は佐世保の4年間のみ。豆酘中学校校長を最後に退職。英俊さんは幼い頃から山と親しみ、対馬の植物を見続けている。愛子さんは、子どもの頃から茶道に親しむ。自宅での茶席には愛子さんが表装した掛軸、英俊さん作の茶碗が用いられることも。「人の3倍くらい遊んで楽しんでいる」と英俊さん「花の世話をしている時が一番楽しい」と愛子さん。

○対馬のあらゆることに造詣が深い英俊さんですが、やはり一番の興味は植物でしょうか。

英俊（以下、英）：そうですね、対馬の山のどこにどんな植物が生えているか、だいたい分かります。白嶽や龍良山は特に好きです。御嶽もいいですね。景色ももちろんですが、生えている植物がおもしろいです。植物を見に来る学者も多いですが、やはり白嶽に行きますね。もちろん、そのような場所での植物採取はしません。観察だけです。信仰上大切な場所として守られてきたこともあり、自然が残っているんですね。

○秋は野鳥の渡りの時期でもありますが。

英：9月のアカハラダカの観察会にも行きましたが、そのような時は妻が皆さんのためにお弁当を作ってくれるんですよ。

愛子（以下、愛）：おにぎりですけどね、毎年作って持って行くんです。以前、上見坂で出会った方が、お店がなくて昼食の調達に困っていたことがあって。おにぎりをたくさん持って行ってたら、そんな方にもお分けできるでしょ。そうしておすそ分けしてたら、去年もいただきましたっておっしゃる方もいたり。

○おにぎりを通した心の交流、ですね。

愛：本当に。人と人との繋がりを大切にしたいなと思って。そこからお友達になって、遊びに来られれば一緒に山にもついて行って、帰宅したら料理でもてなして。対馬の料理ですよ。それが島外の人にとってはごちそうですから。私たちも、島外の話が聞ける良い繋がりです。

○愛子さんは子どもの頃からお茶を楽しまれるとか。

愛：昔はお茶や琴のお稽古をしている人が多かったですね。男性もお茶を習っていました。実家では祖父や父もお茶をしていて、お正月には父がお茶を点てていたほどです。お茶席にあるのは、人へのもてなしの心。今日の客のために道具を選び、花を生け、料理を準備する。思いや心、いろいろなものが回り巡るひと時ですね。

○対馬のさまざまなものを見てこられて、憂いと期待は？

英：まず、伝統文化の消滅が心配です。盆踊りや地域の行事がなくなってきているのが残念。昔の知識を持っている人が亡くなるうえに記録がないのが残念です。文化と同じく、言葉が絶滅してきています。豆酘弁などこの何十年かの間に消えてしまおうとしています。対馬は自然がいっぱいと言うけれど、山の中は鹿やイノシシが植物を食べてしまい、草が生えていない状態。先日は延喜式に出ているお宮29社を巡りましたが、田舎のお宮は氏子も減って維持ができず荒れた所もありました。早くしないと、あと10年もつだろうか…知恵を持った人が今ならまだいる、そのうちに記録を残さなければ。そういった点では、私は新しい博物館に期待しています。今は、いろんな所から対馬に来た人が、うちで情報を得て島内の目的地に向かっています。博物館が、その情報収集の拠点としての働きを担ってくれることを期待します。博物館が完成すれば、私の集めた情報や資料も、その働きの助けにしてもらいたいと思っています。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は峰町佐賀にお住まいの兵頭順子さんです。お楽しみに。